
ラセッタの動物たち

あしか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラセッタの動物たち

【著者名】

あしか

N7883A

【あらすじ】

ラセッタの動物たちは、みんなとてもいい動物たちだ。

ねえ、世界つていつたいなにでできるんだね!」

「こないだ、2歳になつたばかりの小さなトナカイの男の子は、そつ
言つた。

つぶらな瞳がかわいい。

あつと、ちよつとしたラッキーや。

もうすぐ、13歳になろうかといつ老齢の七面鳥は、やつぱつと、
頸から伸びた白い鬚が地面まで届きやつになつて、こわ。

ラッキーつてなあ。

「どうして、もりだいが食べたいつてとき、シロアリつてなに
か思いつくかひでことや。

ふうん……。

話は変わるけれど、丘の上の小さな家に住んでる、あの有名な
七面鳥の夫婦の3匹田の子供が、こないだついに、空を飛ぶのに成
功した。

32メートルの、見事な大飛行だつた。

これはやつぱり、彼女の父親が、毎日仕事を終えてから、彼女の
練習につきあつてあげたからだらうな……。

だから、その子が飛んだとき、一番田に喜んだのは、父親だった。
一番は、もちろん彼女だ。

そのとき父親は、こんなことを言つた。

す」「こでHリー、初めて飛んだの」「32メートルも飛ぶなんて
な、お前は3歳になつても飛べないのをずっと悔しがつていたが、
父さんは、初めて飛んだときは、12メートルしか飛べなかつたん
だよ。さあ、今日はもつね家に帰つて」「飯にしよう」「帰つたら、み
んなに今日の話を聞かせてやる」。

やれりに帰つてて、お父さん、あたし、もつねひと飛んでみたい
の、やつと、飛べたんだから。

彼女はやつと、

顔は嬉しさと興奮で染まつてこる。

だめだだめだ、あまつやつあれるヒ、変な癖がつくからな、それ
にもう遅い、続きは明日にしよう、明日はもつねといに飛べるよ
うにならなくちゃな。

きれいに飛ぶつて」「やつ」と。

「Hのつねまで飛んでから、そのつねまで飛ぶつて」と。

ふうん……。

わあもつね、お家で母さんが美味しい料理を作つて待つてい
るよ。

「うそ、お父さん、続きはまた明日ね、絶対、約束だよ。

ああ、約束だ。それじゃあ急いで、お家まで、427メートルも
あるからな、急がないと、夜になつちまつ。

……七面鳥は距離を測るのがすくく得意だ。彼ら、彼女らは、毎年ものすく遠いところまでまたたく間に引っこしをするらしい。

もつと話をしたいところだけれど、今日はもう遅い、ここまでにしみつ。

ラセッタの動物たちは、みんなともいい動物たちだ。

今日も、ラセッタにはのどかな空気が流れているし、朝になれば、優しい太陽が顔をだすだろう。

それでは、また、どこかで。

(後書き)

拙い文章ですが、楽しんで読んで頂けたなら、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7883a/>

ラセッタの動物たち

2010年12月3日06時00分発行